

ストック・カンリ敗退記

(報告) 河内達人

◎ 山行期日 2017年7月9日～31日

◎ メンバー 中道(L)、河内

8泊9日のザンスカール・トレッキングを無事終え、引き続きストック・カンリの登頂を目指した。結果は残念ながらの敗退となった。



レーのホテルOMASILAのテラスからストック・カンリが遠望できた。

7月23日(日)

ザンスカール・トレッキングを終え本日は休養日、ストック村の拠点(にやむしゃんの館)で1日ノンビリと過す。カメラを充電しつつに本人も充電した。日本を発って15日目かなり疲れてきた。後期高齢者にとって海外山行は2週間が限度かも。ただ嬉しい事に、「にやむしゃんの館」に戻ったので多少食が進むようになった。

午後ストック・パレスに行った。王宮一帯が緑、それを超えると黄土色の大地、ストゥーパと言うのだろうか、丸い塚を伏せたような建物があちこちに見える。パレスは博物館になっているが何と王宮と同居していると言う。王様に会えないかとキョロキョロ捜したが何処かに御隠れになっていたようでご拝謁は叶わなかった。

夕食時、明日からのストック・カンリ登頂について打ち合わせる。ワンボ(にやむしゃんの館の主でガイド)は、アタックキャンプから頂上まで8時間だと言う。トレッキングを通して我々の実力を知っている

ワンボの言う事に間違いはない。これを元に4泊5日の登頂計画を確認した。

7月24日（月）

「にやむしゃんの館」を出て5分も歩けばもう村はずれだ。そこからストック川に沿って谷底を、兩岸の岩壁の高さに圧倒されつつ、時には河原を時には高巻きしつつ登って行く。



撮影：W（ワンボ）

先頭に行くのはガイドのソナム、人懐っこい笑顔が浅黒い。途中道端で拾った棒切れを足でへし折ってストックに利用していた。スニーカー程度の靴だが歩くのはメチャ速い。ソナムに続くのは、筆者、続いて中道さん、最後尾はストック村からついてきた犬、何故か足を引きずっている。



撮影：N（中道）

一行は我々2人の他、ガイド2人（ワンボ37歳、ソナム27歳）、アシスタント1名、コック1名、馬方1名、馬5匹+仔馬1匹。以上総勢7名プラス6匹だ。

ザンスカール・トレッキングの時もそうだったが、ここでも仔馬がついて来る。仔馬が成長した時のための訓練なのだろうか、それとも母馬が働きに出ると仔馬の面倒を見る者がいないので子連れで働いているのだろうか。兎に角仔馬は母馬について回る、休憩時直ぐにオツパイ飲みたがる。母馬は重い荷物を背負ったまま仔馬に乳を飲ませていた。ザンスカール・トレッキングの時は仔馬がオオカミに食べられたが、こちらの仔馬は食べられずに済んだ。

河原を歩く時は何回か渡渉した。その時のためにサンダルを用意していたが出番は殆どなかった。2人のガイドが川に石を放り込んで、実に見事に飛び石を作ってくれた。話は横道にそれるが、この地方には樹木が殆どない。あるのはポプラと柳ぐらいのもので、真っすぐに伸びたポプラは建築資材として柱や梁に使われている。柳は地上2mぐらいの所でちょん切ってそこから沢山出てくる枝を薪や建築補助資材として利用している。樹木が少ないので石が重要な建築資材だ。家も道路も塀も水路もみな石を器用に組み上げて作られている。この地の男は石組の技に長けているに違いない。2人のガイドが手際よく飛び石を作っているのを感じながら見ていてそう感じた。お陰さまで我々はその上をひょいひょいと渡って行けばよい。

道は然程急な所もなく快調、ただ、5月の富士山トレーニングで痛めた左足首に少し違和感があるのが気がかりだ。トントン・ラ（峠）を経て13時過ぎにはモンカルモ（LBC）に到達した。

7月25日（火）

今日はモンカルモ（LBC）からUBCまでだ。標高4382mから4970mまで標高差は約600mだ。ザンスカール・トレッキングで4959mのセンゲラ・パスを経験しているので高度馴化は万全だ。ただ左足首が気になるので用心のためサポータで締め上げた。所要時間も短く、10時にはUBCに到達してしまった。

到着後更なる高度馴化のためゴレップカンリ方向に向かってに少し登る事とした。ところが、である。150～160m登った所で腰が痛くなってきた。左足首を痛めた後それを庇うような歩き方をしている内に今度は腰が痛くなってしまったのだが、日本を発つ前に良くなっていたので大丈夫と思っていたのだが、ここに来て再発するとは何とも情けない。身体を捻ったりすると痛みが走る。ともかく今日はこれ以上登るのは無理と中止を願い出た。



我らがガイド、ソナムさん、脚力は吃驚するほど強く道も熟知している。真っ暗な中目印もない道を何の躊躇もなく歩いて行く。渡渉に適した場所も頭に入っている。ただ、ザイルやカラビナ、ハーネス等を使っのビレーについてはあまりやらないようだ、否、この程度の山では不必要と考えているのかもしれない。この事は、日本を出る時は知らなかった。こちらに来て初めて知った。事前打ち合わせで、危険な場所では中道さん

が私をビレーしてくれる事になった。

ストック・カンリでは必要性は少ないかもしれないが、ビレー技術は重要、時間も十分あったので急遽中道さんが、持ち合わせていたザイル、シュリング、カラビナを使っての確保方法について講習会を開く事となった。生徒は、2人のガイドとアシスタント1名。近くの空き地を利用して実習を行った。

7月26日（水）

日本を発って18日目、今夜の出発のため日中は休養だ。テントの中は暑くて暑くて蒸し風呂状態、こちらに来て風呂には碌に入っていないので、風呂は助かるのだがこの蒸し風呂は戴けません。それでもあちこち歩くと疲れるのでテントの中で過ごすしかない。3時頃夕食を食べて就寝・・・、一睡もできなかった。

7月27日（木）

いよいよ登頂を目指す日だ。正確には前日（7/26）夜9時起床、コックが気を利かして作ってくれた「おにぎり」を頬張って、ヘッドランプ着けて、10時45分出発。テント村のすぐ後ろの坂を登る。昼間見た時は緩やかな坂と見たが歩くと結構急だ。ソナム、小生、中道さん、ワンボの順だ。先頭のソナムを必死に追いかける。チョット油断すると直ぐに10~20m離れる。離れた事に気付いたソナムは私が追いつくのを丁寧待ってくれる。ところが歩き始めると直ぐに離れる、離れると待ってくれる、又離れる、の繰り返しだ。真っ暗なので今何処を歩いているのかさっぱり分からない。所々に雪が出てきた。それでもアイゼンを着用しようとは言いたさない。辺り一面が雪となった所で漸くアイゼン着用の指示があった。疲れの所為か、高山病の兆しか、アイゼンが上手く着用できない、ソナムが手伝ってくれる。

ソナムは、ひ弱な小生を色々気遣ってくれる。急坂ではジグザグに歩いてくれる。ジグザグで進行方向を変更する時、一瞬ソナムを見失う。ヘッドランプの照らす範囲が狭く、一瞬顔を上げてソナムを眼で追う。途端に足元がふらつく、こんな事を繰り返して、それでも少しずつ登って行く。休憩は、1時間15分歩いて1回のペースだ。普段30分に1回のハイキングペースに慣れた小生にはチョット厳しかった。

今年は雪が多いらしい、普段は通らなければならない崖っ淵も今年はバイパスして雪面を歩けば良い。雪は然程硬くもなくピッケルは使わずともよい。

歩き始めて7時間、辺りもすっかり明るくなり標高5800mを越えた所で、私の体力が尽きた。SpO2の値は未だ正常範囲ではあったが多少酸素不足の影響もあったのか「ふらつき」が多くなった。少し休憩すればまだまだ歩ける気もしたが、皆さんが私の「ふらつき」を心配してくれて、最終的にはソナムさんが判断して下山する事になった。こんな時は当事者より周りの者の方が冷静に的確に判断できる。私の判断そのものが高山病による間違った判断かもしれないと思い直し下山に同意した。ただチョット残念ではあった。



こんな景色が見下ろせる所までは来ました。

ガイドの二人は持参したタルチョをわれわれ二人の頸に触れそのタルチョを別のパーティーのガイドに託してくれました。このタルチョを頂上に掲げる予定だったようです。お伊勢参りの代参の様です。

登る時は暗かったので何も見えなかった周りを見ながらの下山となった。急坂ではガイドのソナムがシュリンゲを使って私を後ろから支えてくれた。ソナムは若くて頑健ではあるが私が突然滑落でもしたら支えきれずに一緒に滑落するかも知れない。前途のある青年を道連れにする訳にはいかない、今山行で一番緊張した。

7月28日（金）

UBCからストック村まで下山した。



登りには周りを見る余裕が無かったが、こんな岩峰の間を縫って歩いていたんですね。

3日前ストック・カンリ頂上に立つ自分を想像しながら歩いた道を、何故失敗したか考えながら下山しました。高度な技術を要する山でもなく、チームワークもバッチリ、荷物も軽く天気は上々、矢張り体力不足と言う外無いようです。有る程度以上の速さで歩き続ける体力、23日間の山行に耐える体力、酸素半分の中を登る体力、それに加えて寝るかに食べる力、これらすべてが力量不足でした。

この中で一番不足していたのは何だったかと問われれば、迷うことなく「食べる力」だったと答えます。矢張り基本の「き」は食べる事です。どのようにしてこの力をつけるかは未解決ですが・・・・。

《記録》

7/23 : 休養 午後、パレス見学

7/24 : ストック 0830-0947 3797m 地点-10:50 3960m 地点-1135 トントン・ラー-12:00 4169m 地点-1323 モンカルモ (LBC)

7/25 : モンカルモ 0748-0832 4589m 地点-0928 4832m 地点-1000 UBC 1025-1118 ゴレップカンリ麓 1230-1300 頃 UBC

7/26 : 休養

7/27 : 前夜 UBC 2245-2330 5130m 地点-0041 旧 ABC-0153 5417m 地点-0231 5463m 地点-0347 5612m 地点-

0607 最終到達点 (5829m) -下山-0832 旧 ABC-0920 UBC 上-0940 頃 UBC

7/28 : UBC 0640-0900 トントン・ラー-1105 ストック